【小学校・交流に関わる体験活動】

子どもの心に響く交流体験活動

大分県大分市立東稙田小学校

○　はじめに

＜本校の概要＞

①　地域の実態

大分市の西部に位置し、大分川に注ぐ七瀬川・霊山等に囲まれ、恵まれた自然環境である。学校周辺には、田や畑が残っている。しかし、最近は稙田新都心化に伴い大型商店、病院等が立ち並び急激な変化も見られるようになり、変貌を見せ始めている。

地域の人々は学校に協力的である。特に多くの高齢者が属する寿会は学校の様々な活動に積極的にかかわっていることも特色といえる。

②　児童の実態

本校は、全校児童数５６６名（５月１日現在)、学級数１９学級（特殊学級１学級を含む）の中規模校である。児童は、素直で明るいが、自ら考えたり学んだりすることが十分に身についていない児童も多い。また、核家族化が進み、周囲の人々や恵まれた自然に関心が薄い児童もかなりいる。

1　本校の豊かな体験活動推進事業のねらい

本校の自然環境・人的環境の特色や児童の実態を生かし、自然や人々との交流を深める自然体験活動や勤労生産活動、交流体験活動に取り組み、心の教育の充実を図り豊かな人間性や社会性・規範意識の育成等に努める。

2　各学年の主な体験活動

(1) めざす豊かな体験活動のとらえ

①　子どもの目線に立った体験活動

②　子どもの心に響く体験活動

③　子どもが夢を描き、夢を語る体験活動

(2) 学年の取り組み　【交流に関わる体験活動を大切にして】

学年	主な活動	活動の場	交　　流	教育課程上の位置付け
１年	公園めぐりと四季の草花や生き物の観察	校区の公園や空き地	地域の人々 保護者 環境指導員	生活・図工
２年	野原や川、海辺の生き物の不思議探し	七瀬川、マリンパレス田浦ビーチ、公園	指導員	生活・図工
３年	ケナフを育て、菓子作りや紙漉の体験と手紙の交流	学校内や学年園	指導員 地域の人々	わくわくタイム・理科・国語

４年	牛乳パックカヌーで七瀬川下りと外国の音楽を楽しもう	七瀬川・学校	地域の人々 保護者・留学生	わくわくタイム・理科・音楽
５年	米作りをしよう（発芽実験・水田整地・田植え・除草・稲刈り・収穫祭・感謝の会）	学校近くの借用田、校内	地域の人々 保護者・ＪＡ職員 Ａさん	わくわくタイム・国語・理科・家庭・社会・図工
６年	原生林の自然を観察しよう（森の働き・野鳥の観察） 地域の環境調査	校区内外の森林	地域の人々 野鳥の会の人々 環境指導員	わくわくタイム・理科・国語・社会

３　主に交流に関わる体験活動の具体的実践事例　『米作りをしよう（５年生）』

(1) 米作りのねらい・重点

①　稲作の方法を自ら調べたり、地域の人々やゲストティーチャーに聞いたりするとともに活動の中で生まれる様々な問題の解決に向けて、協力して積極的に取り組む。

②　種もみまきから収穫までの活動を通して稲の成長の様子を観察し、稲を育てる苦労や自然を相手にする大変さ、農家の人の苦労や工夫や収穫の喜びを体験する。

③　お世話になった方々に感謝の気持ちを伝えるために、自分達で感謝の会を計画する。

(2) 活動計画

①　一次の活動

ア　「米作りをしよう」というめあてをもつ。

イ　米作りの方法を調べる。

（交流）家の人や親戚の人、地域の人や農協の人、Ａさんに聞く。

図書館やインターネットで調べる。

ウ　調べてわかったことをまとめ、発表する。

②　二次の活動　<u>勤労生産活動と交流体験活動</u>

ア　米作りをする。

５月○（交流）５アールの田を貸してくれるＡさんへ代表が挨拶に行く。

○種もみの観察・発芽実験・種もみまきをする。

６月○田植えの仕方について調べる。

○（交流）田植え機を使った田植えの方法を農協職員に聞き、その後田植体験をする。

７、８月○苗の観察・水の管理・除草・追肥をする。

○（交流）害虫について農協職員、Ａさんに聞く。

９月○雀対策を考え、案山子を作る。

１０月○稲刈り体験をする。

○（交流）Ａさん、地域の人々に鎌の使い方や掛け干しの仕方を習う。

１１月○足踏み脱穀機や自分で作った道具を使って脱穀をする。
○（交流）使えなかった足踏み脱穀機を蘇らせたＳさんや落ち穂拾いで一粒の米の大切さを教えてくれたＡさんや地域の方の応援をうける。
・とうみをつかってもみを選別する。

③　三次の活動　<u>主に交流体験活動</u>

ア　「収穫祭」をしよう。
・おいしい餅をつこう。
・お世話になった方々にお礼をしよう。
・６年生の卒業をお祝いしよう。

※自分たちで作った米でどんなことをしたいか。

イ　感謝の会の計画を立てて準備しよう。
ウ　感謝の会をしよう。
エ　米作りで学んだことや感想をまとめよう。

(3) 交流体験活動の授業展開例『収穫祭（餅つき）をしよう』

①　活動のねらい

自分たちで育てた餅米のつき方を、事前に調べた方法で確かめたり、地域の人々に教わったりしながら習得する。

②　展開

分	○学習活動　・期待する子どもの姿	□教師の指導　■評価の観点
５	○各教室で餅つきの流れや自分のめあてを確認する。	□各自のめあては、前日までに決めておくようにする。
２０	○餅つきの準備をする。 ・家庭科室、理科室…餅つき器で餅をつく準備をする。 ・中庭…臼や杵、湯の準備をする。 ・５の１…机の上にビニールを敷き餅とり粉をまく。	□準備を地域の方と共にするように声かけをする。 ■地域の方に挨拶をしたり、積極的に質問することができる。 ■協力して準備を進めることができる。
９０	○各場所で餅つきと餅を丸める活動を体験する。 ・こつを教わりながら体験し、友だちと励ましあい活動する。 ○自分たちの教室に戻り会食する。 ・家からもってきたきなこや黒砂糖をまぶし、美味しくたべる工夫をする。	□初めて体験する子が多いのでけがをしないよう事前に安全指導する。 ■地域の方に感謝しながら楽しく会食することができる。
３０	○片付けをする。 ・米粒をしっかり落とし拭きあげる。 ・済んでいない人を手伝う。 ○感想を書く。	□めあての達成や心に強く残ったことを中心に書くように指導する。

③　児童の感想

○　なぜ、餅米だけが餅になったのかと思った。餅は、ねばねばしていてすぐにくっついた。とても熱いのにその餅をさわって裏返ししているおばあちゃんはすごいと思った。（Ｔ男）

○　ボールとすりこぎを使って餅をつくった方は、手にたくさんくっついて大変だった。すりこぎでバンバンとたたいていくと、ねばねばになって餅らしくなった。

うすと杵も使った。この時は、手伝いに来てくれた人たちがいそがしそうだった。杵は、思ったより重くて大変だった。地域の人や友だちと食べた餅は、おいしかった。お米作りの作業の中で今日は、一番楽しかった。（Ｋ子）

④　考察

米作りを支援してくれた地域の人との関わりが深まっていることや子どもたちが感動や喜びを実感している時には、作業のきつさにぐっと耐えたこともあったが、子どもが夢をえがき夢を語る活動計画を展開するように努めた成果が現われつつあると考えている。

４　平成１４年度の実践を通して

(1) 成果

①　各学年とも地域の人々や自然観察指導員の方々等の力を積極的に活用したことで多くの先人の知恵や工夫や熱意などを学ぶことができた。

また、人々の姿に感謝の気持ちがもてたことも大きな成果である。

②　体験活動から受ける子どもの思いを大事にするように努め（子どもの目線に立つことを大切にする努力）、一人一人の思いや感想を記録させた。それらの子どもの記録を参考に、体験活動が有効であったか、工夫の余地はないか等、今後に生かしたい。

③　教師集団に協働の機運が確実に高まった。計画・準備・実施・評価反省など学年での協力体制で臨んだ。

(2) 課題

①　今年度は、研究の一年次であったために計画の修正をしながら活動を展開した部分がかなりある。二年次は、今年度の成果や課題を生かして見通しをもって実施したい。

②　学年ごとの体験活動は、学年の工夫や努力で実施できたが、他学年の体験活動については、十分に共通理解する時間が取れなかった。来年度は、この点を克服したい。

③　学校支援委員会の連携・協力体制が整った。とくに稲刈りの体験活動では、地域保護者の委員会のメンバーの方も参加し、子どもたちと一緒に汗を流していただいた。終了後に感想をいただき大変参考になった。来年度は、さらに地域の特色を生かした体験活動の一層の充実のために学校支援委員会の在り方を探りたい。

○　おわりに

豊かな体験活動推進事業を通し、地域の人々や保護者、諸機関の人々との関わりを深め、本校の教育活動に多くの協力や示唆をいただきながら実践できたことを教職員一同心より感謝している。また、残された課題を真摯に受け止め次年度につなげたい。